

出寺平遺跡 (第3次)

久保地尾根遺跡 (第13次)

南尾根遺跡

二枚田遺跡 (第6・7次)

平成22年度 個人住宅建設に先立つ出寺平遺跡第3次・久保地尾根遺跡第13次・南尾根遺跡・二枚田遺跡第6・7次緊急発掘調査報告書

2011. 3

長野県原村教育委員会

で え で ら い せ き
出寺平遺跡 (第3次)

く ぼ ち お ね い せ き
久保地尾根遺跡 (第13次)

みなみ お ね い せ き
南尾根遺跡

に ま い だ い せ き
二枚田遺跡 (第6・7次)

平成22年度 個人住宅建設に先立つ出寺平遺跡第3次・久保地尾根遺跡第13次・
南尾根遺跡・二枚田遺跡第6・7次緊急発掘調査報告書

2011. 3

長野県原村教育委員会

序

この度、平成22年度に実施した出寺平・久保地尾根・南尾根・二枚田の4遺跡の緊急発掘調査報告書を刊行することになりました。

原村が位置する八ヶ岳西麓は遺跡の宝庫であります。特に縄文時代を中心とした遺跡は全国的に著名で古くから注目を集めてきました。

発掘調査はいずれの遺跡も個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査で、国庫から補助金交付を受け、原村教育委員会が実施したものであります。

発掘調査の結果は、本報告書にみられるとおりであります。特に南尾根遺跡と二枚田遺跡に関しては一定の成果を得ることができたと考えております。

南尾根遺跡は初めて発掘調査が行われ、縄文時代と平安時代の住居址を検出しました。これにより本遺跡が集落跡であることが判明したことは今後の保護、調査を考える上で重要な発見でありました。

二枚田遺跡は遺跡の西外縁部の調査が行われ、低地にて小竪穴を検出しました。これまで尾根上～斜面を中心に調査が行われてきたことを考えると、今後、遺跡の低地部について注意する必要があると考えております。

近年は、昨今の経済状態に伴い、大規模開発は減少しております。ただし、今年度のような個人住宅建設に伴う小規模な調査は今後も引き続き行われていくと考えられます。このような調査記録の蓄積により、遺跡の範囲、性格等を明らかにすること、これらの成果を活用することが今後よりいっそう重要になってくると考えております。

最後になりましたが、今回の発掘調査にあたって、県教育委員会のご指導ならびに発掘調査に係る多くの皆様のご協力に深甚なる感謝を表す次第であります。また、発掘調査報告書刊行にいたる過程で、ご指導を賜った皆様にたいし厚くお礼申し上げます。

平成23年3月

原村教育委員会

教育長 望月 弘

例 言

- 1 本報告は、平成22年度個人住宅建設に先立ち実施した長野県諏訪郡原村上里区に所在する出寺平遺跡第3次、室内区に所在する久保地尾根遺跡第13次、弘沢地区に所在する南尾根遺跡第1次、中新田区に所在する二枚田遺跡第6・7次緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は国庫から発掘調査補助金交付を受けた原村教育委員会が実施した。各遺跡の調査期間は次のとおりである。出寺平遺跡は平成22年5月6日～18日、久保地尾根遺跡は平成22年9月3日～9日、南尾根遺跡は平成22年9月24日～10月12日、二枚田遺跡第6次調査は平成22年10月15日～27日、第7次調査は平成23年1月14日。整理作業は5月19日から断続的に3月28日まで行った。
- 3 現場における記録・写真撮影は平林とし美、佐々木潤が行った。
- 4 図面等の整理は平林・佐々木・菊地伸治・五味幸子、遺物の整理は五味さゆり、トレース作業は平林・佐々木・横内かおりが行い、石器の実測は株式会社シン技術コンサルに委託した。
- 5 図面の作成は平林・佐々木・五味さゆり・渡部静香、執筆はⅢ南尾根遺跡（2）遺構と遺物、Ⅳ二枚田遺跡第6・7次（2）遺構と遺物を平林とし美が執筆し、その他は佐々木潤が執筆した。
- 6 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。

発掘調査から報告書作成作業に至る過程で、ご指導・ご助言をいただいた多くの方々に厚く御礼申し上げます。

目 次

序

例言

目次・図版目次・表目次・写真目次

I 出寺平遺跡 第3次発掘調査	1
1 発掘調査に至る経過	1
2 調査組織	1
3 発掘調査の経過	3
4 遺跡の地理的環境と概要	3
(1) 地理的環境	3
(2) 遺跡の概要	4
5 調査方法と調査結果	4
(1) 調査方法と層序	4
(2) 調査結果	4
6 まとめ	5
II 久保地尾根遺跡 第13次発掘調査	6

1	発掘調査に至る経過	6
2	調査組織	6
3	発掘調査の経過	6
4	遺跡の地理的環境と概要	7
	(1) 地理的環境	7
	(2) 遺跡の概要	7
5	調査方法と調査結果	8
	(1) 調査方法と層序	8
	(2) 調査結果	8
6	まとめ	8
III	南尾根遺跡 第1次発掘調査	9
1	発掘調査に至る経過	9
2	調査組織	9
3	発掘調査の経過	10
4	遺跡の地理的環境と概要	10
	(1) 地理的環境	10
	(2) 遺跡の概要	10
5	調査方法と遺構・遺物	11
	(1) 調査方法と層序	11
	(2) 遺構と遺物	12
	①縄文時代の遺構と遺物	12
	竪穴住居址	12
	小竪穴	15
	遺構に伴わない遺物	18
	②平安時代の遺構と遺物	19
	竪穴住居址	19
	遺構に伴わない遺物	20
6	まとめ	20
IV	二枚田遺跡 第6・7次発掘調査	21
1	発掘調査に至る経過	21
2	調査組織	21
3	発掘調査の経過	21
4	遺跡の地理的環境と概要	22
	(1) 地理的環境	22
	(2) 遺跡の概要	22
5	調査方法と遺構・遺物	22
	(1) 調査方法と層序	22
	①第6次発掘調査	22

②第7次発掘調査	25
(2) 遺構と遺物	26
①第6次発掘調査	26
小竪穴	26
②第7次発掘調査	27
小竪穴	27
遺構に伴わない遺物	28
6 まとめ	28
参考文献	
報告書抄録	

図 版 目 次

第1図 原村域の地形断面模式図（宮川—久保地尾根—南尾根—二枚田—出寺平—赤岳ライン）	1
第2図 出寺平遺跡・久保地尾根遺跡・南尾根遺跡・二枚田遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図 出寺平遺跡発掘調査区域図・地形図	3
第4図 久保地尾根遺跡発掘調査区域図・地形図	7
第5図 南尾根遺跡発掘調査区域図・地形図	11
第6図 南尾根遺跡遺構配置図	12
第7図 南尾根遺跡第1号竪穴住居址実測図	13
第8図 南尾根遺跡第1号竪穴住居址出土土器拓影・石器実測図	14
第9図 南尾根遺跡小竪穴1～4実測図	15
第10図 南尾根遺跡小竪穴1・遺構外出土土器拓影	16
第11図 南尾根遺跡遺構外出土土器拓影	17
第12図 南尾根遺跡遺構外出土石器実測図	18
第13図 南尾根遺跡第2号竪穴住居址実測図	19
第14図 南尾根遺跡第2号竪穴住居址出土土器実測図、遺構外出土土器拓影	20
第15図 二枚田遺跡第6・7次発掘調査区域図・地形図	24
第16図 二枚田遺跡第6次発掘調査遺構配置図	25
第17図 二枚田遺跡第6次発掘調査小竪穴12実測図	27
第18図 二枚田遺跡第7次発掘調査遺構配置図	27
第19図 二枚田遺跡第7次発掘調査小竪穴13実測図	27
第20図 二枚田遺跡第7次発掘調査小竪穴13出土石器実測図	28

表 目 次

表1 出寺平遺跡・久保地尾根遺跡・南尾根遺跡・二枚田遺跡の周辺遺跡一覧	2
表2 南尾根遺跡出土鉄製品・鉄滓一覧表	20

I 出寺平遺跡 第3次発掘調査

1 発掘調査に至る経過

個人住宅の建設に先立ち、原村教育委員会に遺跡の照会がされた。予定地が出寺平遺跡（原村遺跡番号40）の範囲内に位置しているため、遺跡の保護について関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが望ましいが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平22年度に緊急発掘調査を実施する方向で同意をみた。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

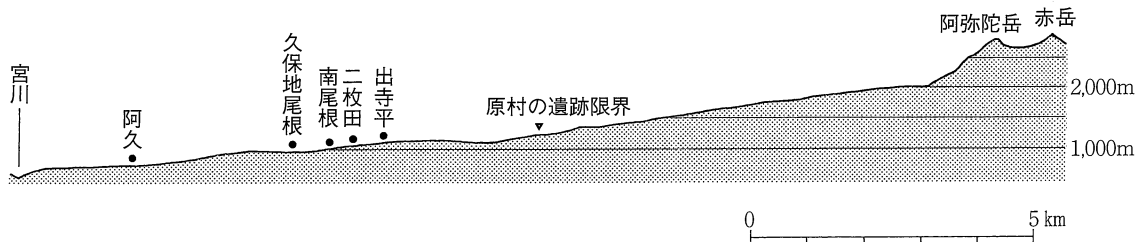
教育長 望月 弘
教育課長 菊池 周吾
文化財係長 百瀬 善康
文化財係 平林 とし美
佐々木 潤

調査団 団長

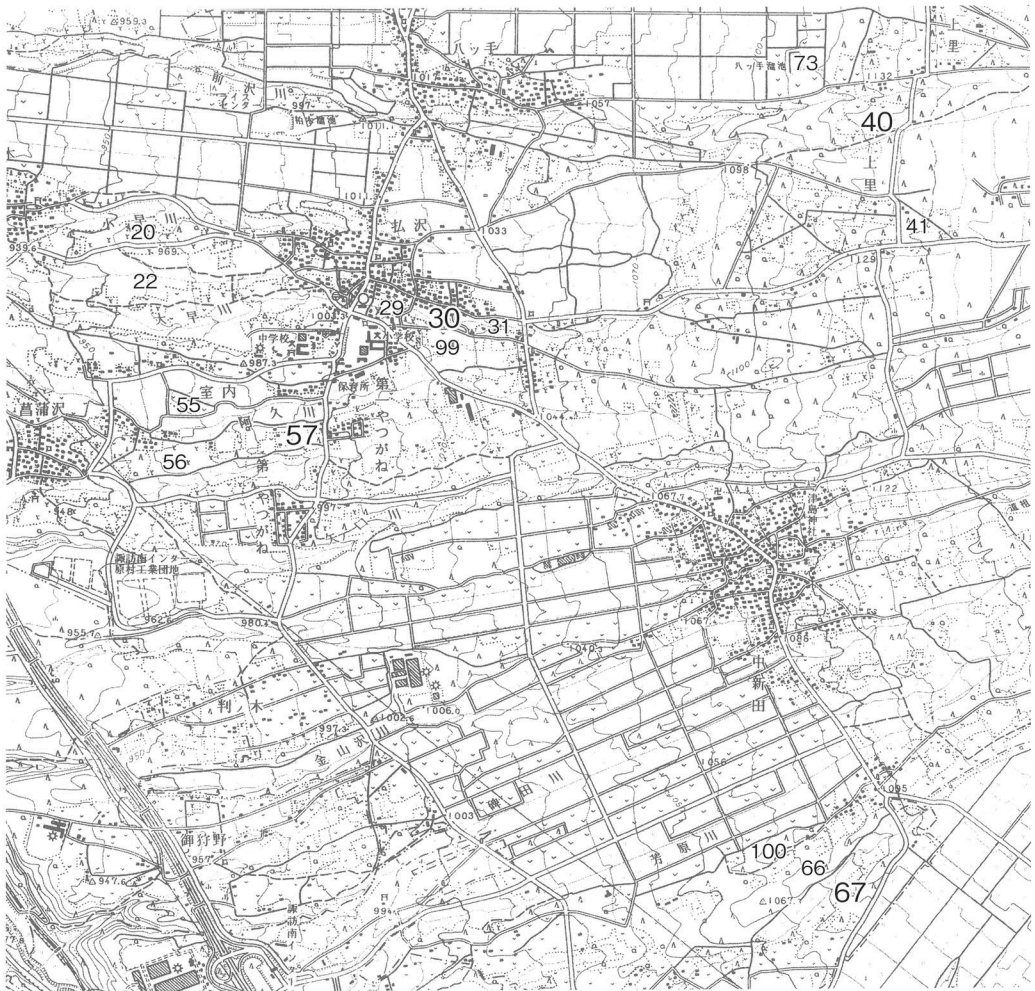
望月 弘
調査担当者 平林 とし美
佐々木 潤

調査参加者

発掘作業 菊地 伸治 五味 幸子 横内 かおり
渡部 静香
整理作業 菊地 伸治 五味 幸子 横内 かおり
渡部 静香



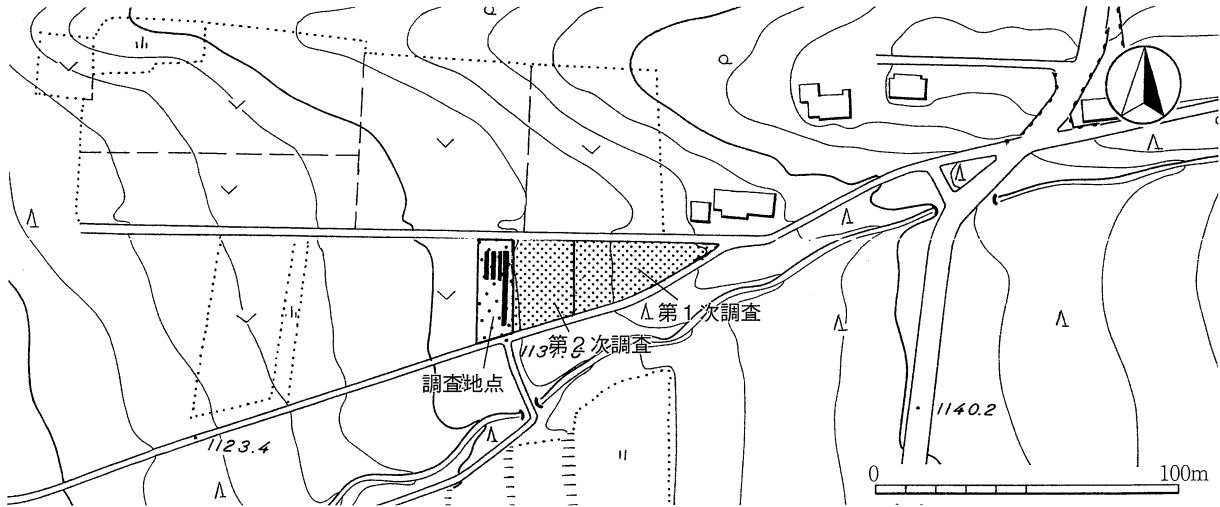
第1図 原村域の地形断面模式図（宮川—久保地尾根—南尾根—二枚田—出寺平—赤岳ライン）



第2図 出寺平遺跡・久保地尾根遺跡・南尾根遺跡・二枚田遺跡の位置と周辺遺跡 (1:40,000)

表1 出寺平遺跡・久保地尾根遺跡・南尾根遺跡・二枚田遺跡の周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	旧石器	縄文			弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前							
20	前尾根			○	◎	◎			◎	○	○	昭和40年頃一部破壊、昭和44・52・53・59年・平成9・15年発掘
22	清水		○	○	◎	○			◎	○		平成8年発掘・消滅
29	向尾根				○	○			○			昭和150・54年発掘
30	南尾根				○				○			
31	中尾根				○							
40	出寺平								○			平成18・19年発掘
41	長尾根日向					○						
55	中尾根				◎	◎	○		◎		○	平成7年発掘
56	家前尾根				◎	◎			◎		○	昭和51年一部破壊、平成7年発掘
57	久保地尾根				◎							昭和51年一部破壊、昭和25年・平成6・7・8・13・14・17・19・20年発掘
66	追分沢				○	○			○			平成10年発掘
67	二枚田				◎		○					平成10年発掘
73	鹿垣							○				消滅
99	中尾根頭				○				◎			平成10年発掘
100	南尾根				○				◎			平成10年発掘



第3図 出寺平遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)

3 発掘調査の経過 (調査日誌抄)

- 平成22年5月6日 発掘準備を始める。
- 5月10日 トレンチ設定を行う。
- 5月14日 重機でトレンチを掘削し、引き続き人力で精査を行うが、遺構を検出するまでに至らない。
- 5月17日 トレンチの写真撮影及び、記録をとる。
- 5月18日 重機による埋め戻し作業を行い、調査は終了する。

4 遺跡の地理的環境と概要

(1) 地理的環境

出寺平遺跡(原村遺跡番号40)は、長野県諏訪郡原村上里区に所在する。原村は八ヶ岳西麓に位置し、東西に細長く発達した大小様々な尾根が幾筋も見られる。それらの尾根上から緩やかな斜面に縄文時代と平安時代を中心とする遺跡が数多く点在している。

その一つである本遺跡は南を小早川の支流、北を前沢川に挟まれた東西に細長い尾根上から南斜面にかけて位置していたと思われるが、対象地一体は平坦面が広く、北側の尾根頂部付近にローム壁が露呈している。これにより尾根が削平され、遺跡の多くはすでに破壊されているように思われる。また、南には享保9年(1724年)に開削された坪の端汝があり、汝幅は広く地形が大きく変わっていることが考えられる。対象地は、標高約1130m前後を計り、地目は荒地で、礫の散乱が見られ地味はあまり良くない。

(2) 遺跡の概要

本遺跡は以前から土器の出土は知られていたが、昭和54年度に長野県教育委員会が行った分布調査で遺物の散布範囲がほぼ明確にされた。採集された遺物をみると平安時代の土師器・須恵器及び灰釉陶器の破片が比較的多く採集されることからみて、住居址の存在が推測される。

対象地に隣接する場所で第2次調査が行われた。平成18年度に実施された第1次調査、平成19年度に実施した第2次調査ともに遺構・遺物の発見には至っておらず、現状では遺跡の性格は明確になっていない。

5 調査方法と調査結果

(1) 調査方法と層序

今回の調査対象地は、住宅建設用地、浄化槽、上水道管敷設地を含めた範囲とし、第3図に示したようにトレンチ3本を住宅建設用地・浄化槽敷設地に、トレンチ1本を上水道管敷設地に合わせて設定した。幅は重機のバケット幅と同様の80cmである。重機による掘削、引き続き人力による精査を行い遺物と遺構の検出に努めた。第1・2次調査で礫交じりの褐色土を確認し、この土層では遺構を検出したことがないため、本調査も同様に礫を多量に含む土層面で掘削は終了とした。調査面積は43.12㎡である。おおまかな基本土層は下記の通りである。

- | | | |
|-----|--------|---|
| 第Ⅰ層 | 暗褐色土層 | 25～30cm前後の盛土である。 |
| 第Ⅱ層 | 黒色土層 | 20cm前後の耕作土である。 |
| 第Ⅲ層 | 暗褐色土層 | 20～50cm前後、小礫から子供の頭大までの様々な礫を多く含む。 |
| 第Ⅳ層 | 褐色土層 | 10cm前後、Ⅲ層と同様に礫を多く含むが、ローム粒子が混ざっているため、Ⅲ層よりも黄色味が強い。その他の包含物・粘性・しまりはⅢ層と類似。 |
| 第Ⅴ層 | 暗黄褐色土層 | 礫混じりのローム層。 |

第1・2次調査でのⅠ層は本調査でのⅡ層、Ⅱ層はⅣ層、Ⅲ層はⅤ層に相当すると思われる。前回までの調査で確認できなかったⅢ層を掘削段階で確認したため、トレンチの一部をⅣ層まで深掘し層序の確認を行った。その結果、所々に大きな礫を多く含む窪みを確認し、その付近では層が厚くなっているが、基本的には20cm前後の堆積であり、この下層にⅣ層が堆積しているのを確認した。おそらく西に向かうにつれてⅢ層の堆積が厚くなったものと考えられ、前回までの調査で堆積していた可能性はあるが、堆積していたとしても僅かにであったため、確認が難しい状況であったと思われる。

(2) 調査結果

本調査では遺構を検出するまでには至らなかった。トレンチ掘削の際にⅡ層から5cm程度の厚さの焼土をいくつか確認したが、耕作土中であるため現代のものと判断した。また、西側トレンチの北側に高いレベルでローム面を確認した。地山の判断が出来なかったため、掘り下げて確認することにした。掘り下げたところ、地山のローム面が下層から検出し、ロームの締りも弱く他の土も混ざっていることを

確認したため、盛ったローム、もしくはロームマウンドの可能性が考えられる。なお、このロームからは遺物は検出できなかった。

出土した遺物はわずかに黒曜石の破片が1点出土しただけであり、しかも、I層の盛土から出土したため、本遺跡に属するものかは不明である。



写真1 出寺平遺跡発掘区全景（北から）

6 まとめ

本調査では遺構の検出はなく、遺物も本遺跡に属するものは確認出来ず、遺跡の性格を明らかにするには至らなかった。第1次・2次調査の報告書で既に述べているように、近くには炭手刀を出土した鹿垣遺跡が所在し、付近一帯は『諏方大明神画詞』にみえる五月会押立御狩に係る地域であることが明らかになりつつあり、諏訪神社研究上においても重要な遺跡と思われる。これまでの調査から、尾根が掘削されているために遺構・遺物の検出は難しくなっていることが明らかになった。今後、調査が行われるにしても難しい状況であるが、注意深く見守っていく必要がある。

Ⅱ 久保地尾根遺跡 第13次発掘調査

1 発掘調査に至る経過

個人住宅の建設に先立ち、原村教育委員会に遺跡の照会がされた。予定地が久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）の範囲内に位置しているため、遺跡の保護について関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが望ましいが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平22年度に緊急発掘調査を実施する方向で同意をみた。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 望月 弘
教育課長 菊池 周吾
文化財係長 百瀬 善康
文化財係 平林 とし美
佐々木 潤

調査団 団長 望月 弘

調査担当者 平林 とし美
佐々木 潤

調査参加者 発掘作業 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり
整理作業 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり
横内 かおり 渡部 静香

3 発掘調査の経過（調査日誌抄）

平成22年9月3日 トレンチ設定を行う。

9月7日 重機でトレンチを掘削し、引き続き人力で精査を行うが、遺構を検出するまでには至らない。

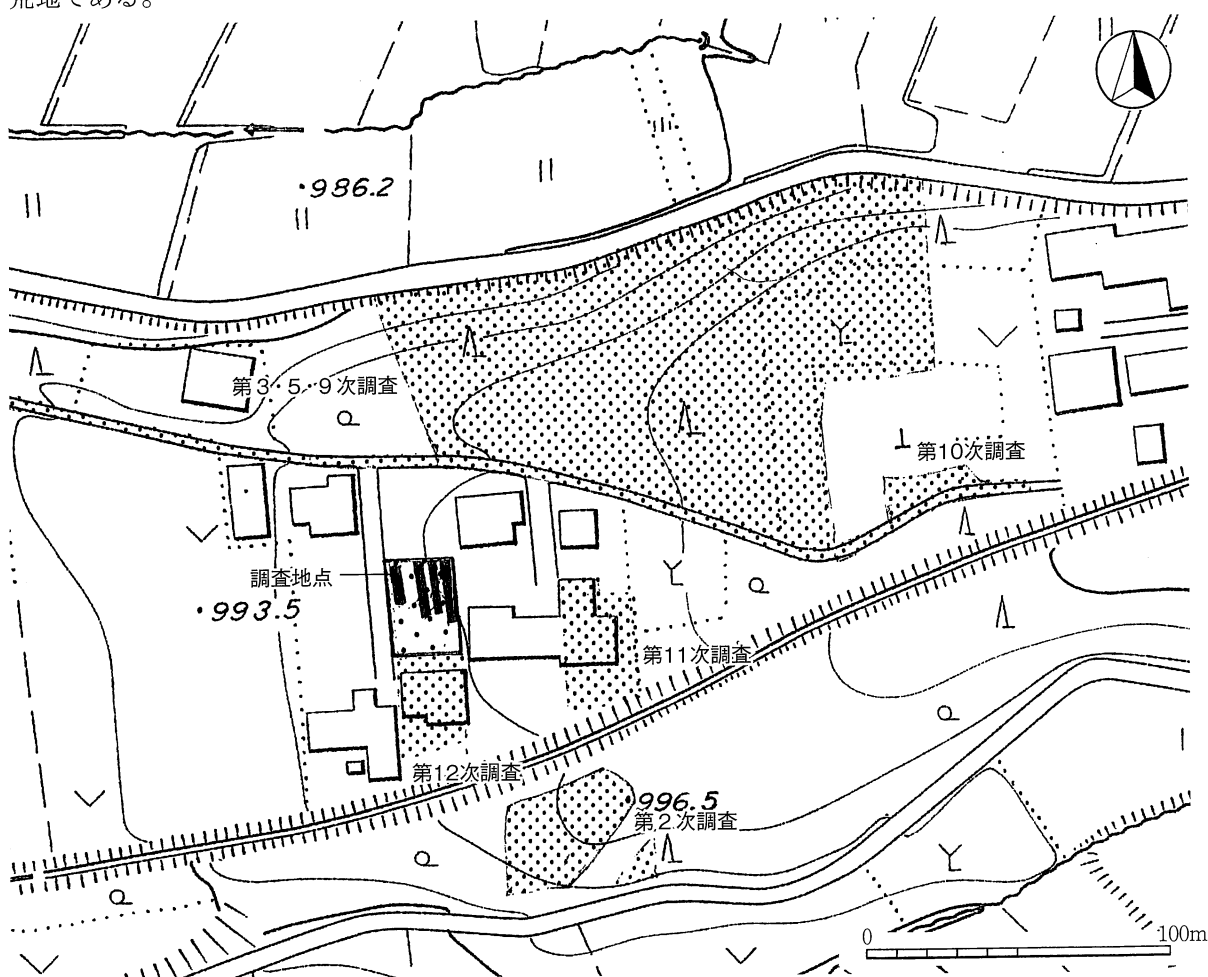
9月9日 トレンチの写真撮影及び、記録を行う。重機による埋め戻し作業、機材の片付けを行い調査は終了する。

4 遺跡の地理的環境と概要

(1) 地理的環境

久保地尾根遺跡（原村遺跡番号57）は、長野県諏訪郡原村室内地区に所在する。県道弘沢・富士見線に接し、村中心部に近いこともあり宅地化が進んでいる。

本遺跡は北を阿久川、南を菖蒲沢川の支流に挟まれた東西に細長い尾根上から南斜面に位置する。南側は比較的緩やかな斜面であるが、北側はきつい斜面となっている。対象地は遺構の検出できなかった第12次調査の北側、第11次調査の西側、尾根上の平坦部に位置する。標高は995.5前後を計り、地目は荒地である。



第4図 久保地尾根遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:1,500)

(2) 遺跡の概要

本遺跡は『信濃資料一』で菖蒲沢堰西遺跡と上村向尾根遺跡とに別称されていた遺跡である。それぞれの遺跡範囲から遺物が出土したことは伝えられており、昭和25年に埋甕が出土したことを便宜的に1次調査とした。本調査に至るまで12次にわたる調査が行われ、第10次調査において尾根上平坦部の調査が行われた。この調査にて住居址9軒、小竪穴173基、うち墓壙と思われるものが16基検出され、住居

址の内側に墓壙群を持つ環状集落が形成していることが判明した。これまでに縄文中期初頭～縄文後期・平安後期の遺物が出土しているが、本遺跡の環状集落を形成した時期は縄文中期後葉の曾利式期である。調査地点は環状集落の範囲からやや外れるが、住居址、その他の遺構の検出が期待された。

5 調査方法と調査結果

(1) 調査方法と層序

今回の調査対象地は第4図に示した住宅建設用地である。かなり以前に住宅用地として造成されているため、遺跡の多くは破壊されている可能性があった。1m幅のトレンチを4本設定し、重機による掘削、引き続き人力による精査を行い、遺物と遺構の検出に努めた。調査面積は41.7㎡である。

おおまかな基本土層は下記の通りである。

- | | | |
|-----|-------|---------------------------|
| 第Ⅰ層 | 黒色土層 | 10～15cm前後の表土である。 |
| 第Ⅱ層 | 黒褐色土層 | 23cm前後を計り、しまりにより分層が可能である。 |
| 第Ⅲ層 | 暗褐色土層 | 15cm前後の漸移層である。 |
| 第Ⅳ層 | 黄褐色土層 | ソフトローム層である。 |

なお、調査区西側のトレンチでは上記の土層が観察出来たが、東側のトレンチではⅡ・Ⅲ層がなく表土直下にはⅣ層が検出される。対象地は緩やかに西に傾斜し、おそらく宅地として造成の際に上部が削られ、傾斜のある西側のトレンチでは土層が残ったと考えられる。

(2) 調査結果

調査地点は環状集落からはやや外れるが、住居址・小竪穴等の遺構の検出を期待したが、遺構・遺物を検出することは出来なかった。以前の造成により土層上部が削られていたが、ソフトローム層が残っていたため、この層まで掘り下げた遺構はなかったと考えられる。ただし、第10次調査でも報告されているような黒土中に構築された遺構があった可能性は否定できない。

6 まとめ

本調査では遺物・遺構の検出には至らなかった。調査地点付近の調査に第11・12次調査がある。両調査も住宅の建替えであったが、本地点と同様にソフトローム層を残しており、遺構の検出は出来なかった。これらのことから、環状集落の範囲は尾根北東に寄り、予想より狭い範囲になると考えられるが、第2次調査では尾根南側から曾利式の住居址が1軒検出されている様に環状集落の範囲から離れた位置にあることも考えられる。そのため、今後の調査において注意深く見守る必要があろう。

Ⅲ 南尾根遺跡 第1次発掘調査

1 発掘調査に至る経過

個人住宅の建設に先立ち、原村教育委員会に遺跡の照会がされた。予定地が南尾根遺跡（原村遺跡番号30）の範囲内に位置しているため、遺跡の保護について関係者と数回にわたり協議を行った。なお、住宅建設地は盛土を行うため遺跡に影響が及ばないと判断し、調査範囲は上下水道の敷設範囲となった。本来なら遺跡は現状のまま保存することが望ましいが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平22年度に緊急発掘調査を実施する方向で同意をみた。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 望月 弘
教育課長 菊池 周吾
文化財係長 百瀬 善康
文化財係 平林 とし美 佐々木 潤

調査団 団長

望月 弘
調査担当者 平林 とし美 佐々木 潤

調査参加者 発掘作業 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり 横内 かおり
渡部 静香
整理作業 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり 横内 かおり
渡部 静香



写真2
南尾根遺跡発掘
区近景（北から）

3 発掘調査の経過（調査日誌抄）

- 平成22年9月24日 重機による掘削作業、引き続き人力により精査を行い、調査区北側より住居址、小
 竪穴を検出。
- 9月27日 住居址が検出された部分のトレンチの拡張を行う。住居址、小竪穴の掘り下げをは
 じめる。
- 9月29日 1号住居址のピット、周溝の掘り下げをはじめ。
- 10月1日 小竪穴の図面作成。
- 10月6日 住居址の全景写真を撮影し、ピットの精査を始める。調査区西壁セクション図作成。
- 10月7日 住居址の図面を作成。
- 10月8日 1号住居址の炉石取り外し、掘り方の調査を始める。機材の撤収を行う。
- 10月12日 埋め戻し作業を行い、すべての調査が終了する。

4 遺跡の地理的環境と概要

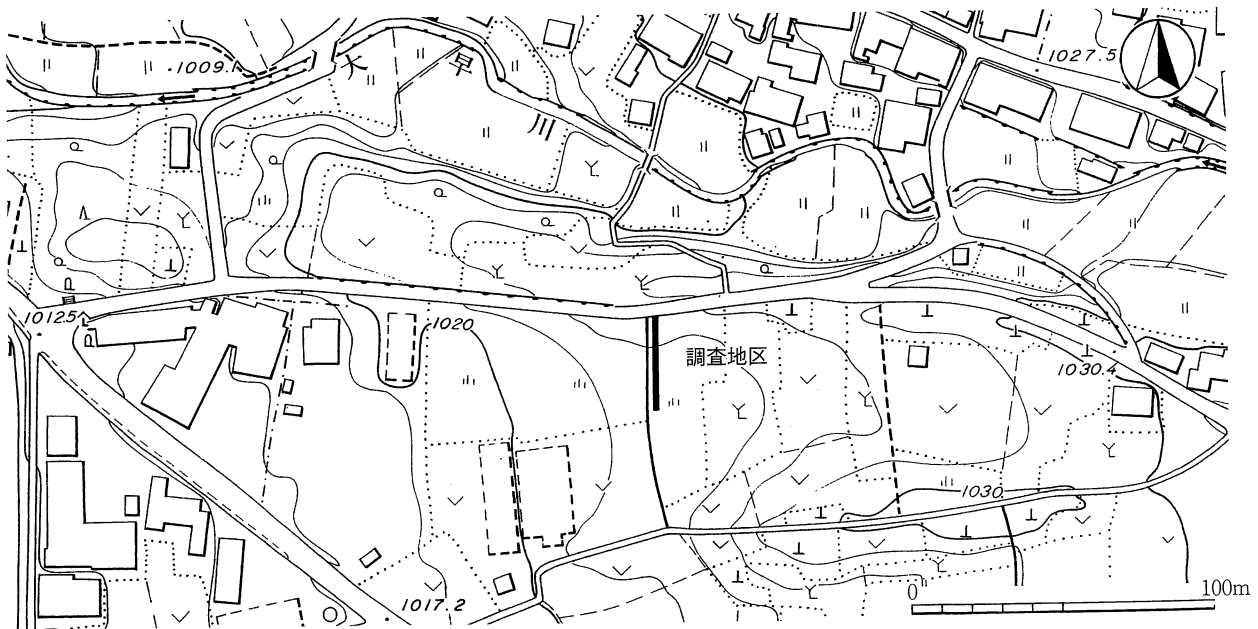
（1）地理的環境

南尾根遺跡（原村遺跡番号30）は、長野県諏訪郡原村弘沢地区に所在する。原村役場の南東方向300
mにあり、村中心地に近いことから宅地化が進んでいる地域である。

本遺跡は北を大早川、南を阿久川に挟まれた東西に細長い尾根上から南斜面に位置している。北側の
斜面はきつくなり、尾根は馬の背状に幅が狭くなるが、西側では尾根幅がやや広くなる。対象地は尾根
肩部～南斜面に位置し、標高は1026m前後を計り、地目は普通畑である。

（2）遺跡の概要

本遺跡は正式な発掘調査は行われたことがないが、地権者、地元の有志の方々により発掘がなされて
いた。これらの詳細については笠原隆光氏が記録した記録帳に記載されている。これによると、中学校
社会科グループによる発掘調査で、縄文土器3個体、石皿、石鏃が発見されたようであるが、年月日は
不明である。また、耕作中に地主の方が縄文土器3～4個体とカワラケ（平安時代の土師器坏であろう）
を発見したとの記載がある。これら以外に、地主の清水春雄氏が耕作中に縄文中期の新道式～藤内式の
土器5点を発見している。この5点は住居址から出土したものと推定される。その後、昭和53年には、
墓地から縄文土器中期の曾利式土器破片と平安時代の土師器甕形土器の一括資料が発見され、墓穴の断
面には平安時代の住居址と考えられる落ち込みが確認されている。以上の様に本遺跡は縄文時代中期、
平安時代の集落跡と推定できるが、遺跡範囲、集落跡の規模及び、性格等は不明な遺跡である。



第5図 南尾根遺跡発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)

5 調査方法と遺構・遺物

(1) 調査方法と層序

今回の調査対象地は第5図に示した住宅建設に付随する上下水道の範囲である。トレンチは調査範囲に合わせ設定し、幅は重機のバケット幅と同様の60cmである。重機による掘削、引き続き人力による精査を行い、遺物と遺構の検出に努めた。調査区北側の尾根肩部～南斜面にかけて住居址を2軒、斜面～低地にかけて小竪穴4基を検出した。住居址を検出したトレンチ部分は調査範囲ぎりぎりに幅を約1mまで拡張を行い、出来るだけ広く調査を行うよう努めた。調査範囲は幅が狭く、斜面ということもあり、遺構認識が遅れ1号住居址の覆土を削り取ってしまった。調査面積は19.3㎡である。

おおまかな基本土層は下記の通りである。

- | | | |
|-----|--------|--|
| 第Ⅰ層 | 黒色土層 | 5～20cm 前後の表土。 |
| 第Ⅱ層 | 明黒褐色土層 | 10～20cm前後の転圧された盛土。 |
| 第Ⅲ層 | 黒褐色土層 | 10c～30cm前後の包含層。 |
| 第Ⅳ層 | 暗褐色土層 | 15c～40cm 前後を計り、ローム粒子を多く炭化物を少量含む包含層。調査区南側では礫混じりの層となる。 |
| 第Ⅴ層 | 明黒褐色土層 | 30cm 前後を計り、ローム粒子を多く含むがⅣ層より混じりが弱い。 |
| 第Ⅵ層 | 黄褐色土層 | ローム層である。 |

なお、第Ⅵ層のローム層は調査区北側の斜面にて確認され、斜面～低地にかけては第Ⅳ層～第Ⅴ層が厚く堆積している。調査区南側の低地では第Ⅳ層から拳台から人頭台の礫が数多く出土し、当地での沢付近の堆積と同様である。当地ではこの層から遺構を検出できたことはない。

(2) 遺構と遺物

① 縄文時代の遺構と遺物

第1号竪穴住居址 (第7・8図 写真3・4)

尾根の最頂部から少し寄った南斜面で、ローム細粒と炭化物をわずかに含む褐色土の落ち込みを確認し、炉址を検出したことにより住居址と確信した。

埋土は南北方向の調査境の掘り込みで観察した。調査区が狭かった事や調査区北側は既にローム層まで削平されていたため、覆土の多くを重機により除去してしまったが、土層観察において北側の壁の立ち上がりが顕著に認められた。総体的にはローム粒と炭化物を含む褐色土で下層ほどその量は多く、基本的にレンズ状堆積で自然埋没と考えたい。

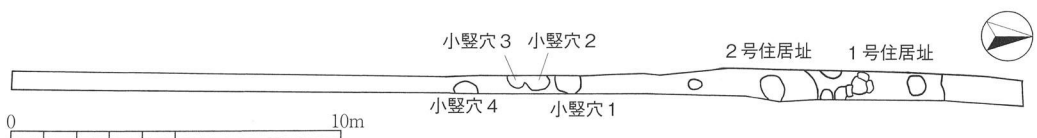
平面形は、未調査部分が多く明確でないが、長軸短軸とも6m前後ではないかと推測される。北壁は土層観察で37cmを計り、立ち上がりは良好である。周溝は北壁直下と炉址北寄りにあり、北壁直下は深さ22cmと深い。柱穴はいずれも深くしっかりしたもので、P1は深さ97cmで東壁の一部分は3～6cmのロームブロックを多く含む埋土で埋まり、下層は硬くしまって粘質が非常に強く、底部の真中は10cm程一段低くなっている。土器破片や黒曜石剥片、凹石2点、凹石と叩石の併用1点の出土があり住居址の総出土遺物量でP1の締める割合が一番多い。P3は深さ51cmで凹石1点が出土、P4は深さ67cmである。P2は深さ75cmで一部袋状になるため貯蔵穴と考えられる。



写真3 第1号竪穴住居址検出状態 (南から)



写真4 第1号竪穴住居址全景 (南から)

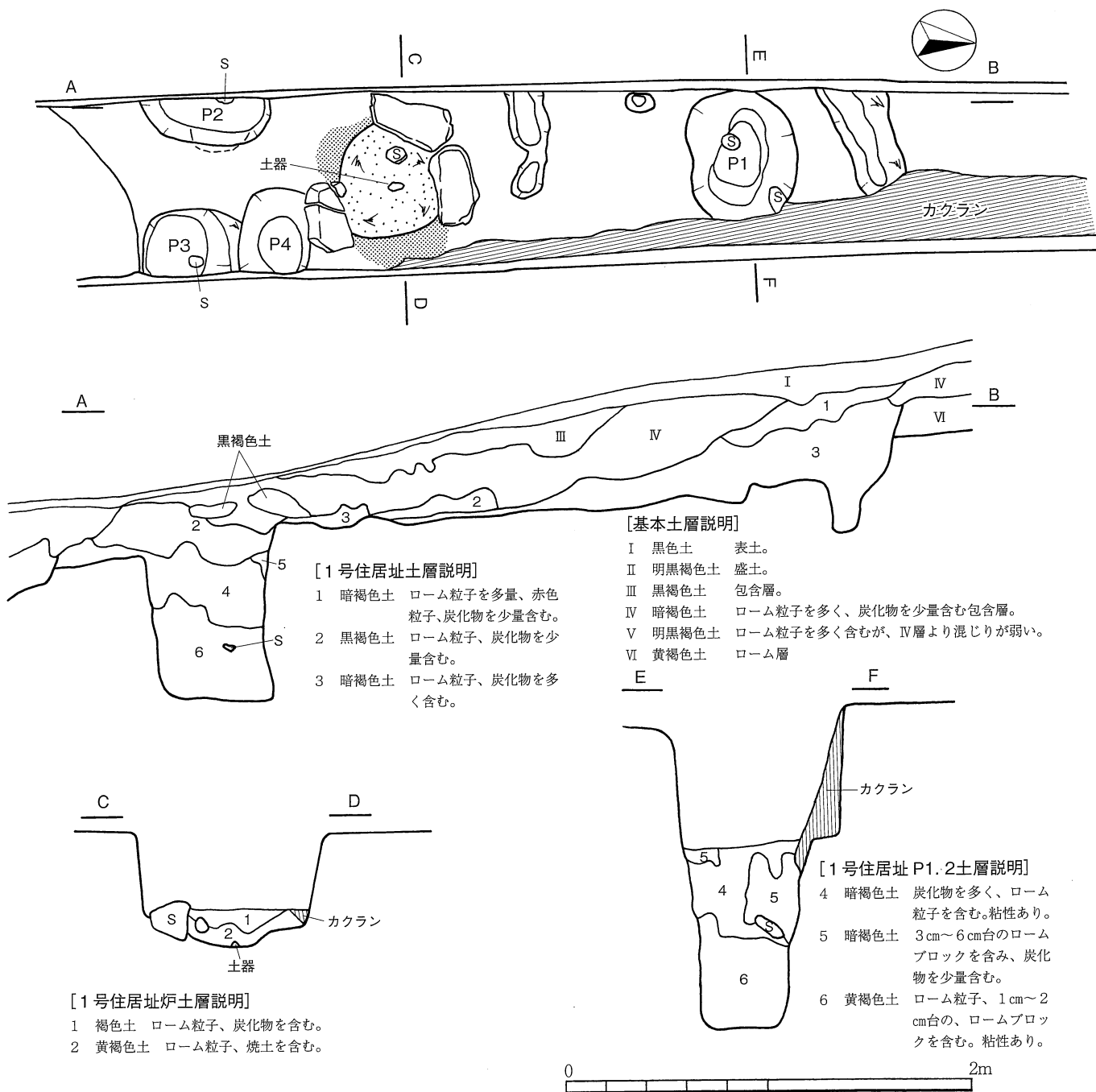


第6図 南尾根遺跡遺構配置図 (1:200)

床面は平らで炉址より北側はロームで硬く、南側はあまりしっかりしていない。P3・4の周辺は特に軟弱である。

炉址は方形石囲炉で輝石安山岩を用い、焚口の一部と他に2個の石が抜かれていた。炉内から凹石と叩石の併用1点と中期中葉井戸尻期の深鉢の小破片5点が出土した。炉内の焼土は非常に弱く、据え置かれた炉石回りや炉石の下が焼け、厚い所で2cmであった。

遺物は極めて少なく、中期中葉の井戸尻式土器の破片24点が出土した。第8図1・4は蒸し器の破片、4は炉内出土で火熱を受けたためか、器面はあばた状になりボロボロしている。8は浅鉢である。石器は剥片類を含め16点で7点図化した。第8図9～11・13・14は凹石、12・15は凹石と叩石の併用である。いずれも輝石安山岩製で13は作業台的な役割をしたと思われる。



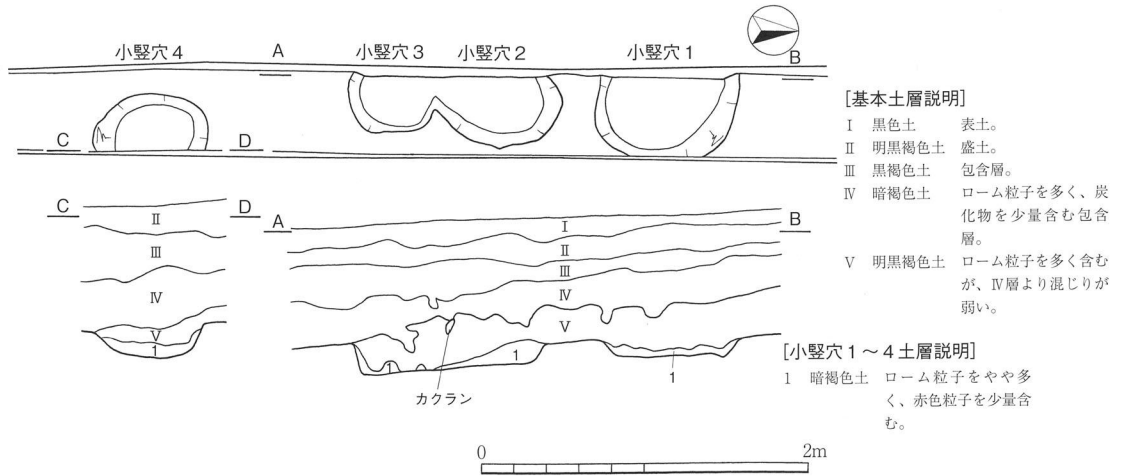
第7図 南尾根遺跡第1号竪穴住居址実測図 (1:30)



第8图 南尾根遺跡第1号竖穴住居址出土土器拓影・石器实测图 1~8 (1:2) 9~15 (1:3)

小竪穴（第9・10図 写真5）

今回の調査では、4基の小竪穴が検出された。いずれも調査区の中央部付近、斜面に位置し、調査範囲の狭さから、遺構の全検出には至らなかった。また、黒色土中に構築されているため、プランの把握が難しく、掘り過ぎてしまった小竪穴もある。土層は基本土層の第IV層よりもやや色調が暗い土層が底部に堆積し、上層は第V層である。



第9図 南尾根遺跡小竪穴1～4実測図 (1:30)

小竪穴1

平面形は長軸86cm、短軸は不明の楕円形を呈し、深さ17cmを計る。底面は凹凸が見られ、立ち上がりははっきりしない。縄文時代中期中葉の土器破片1点を発見した。

小竪穴2・3

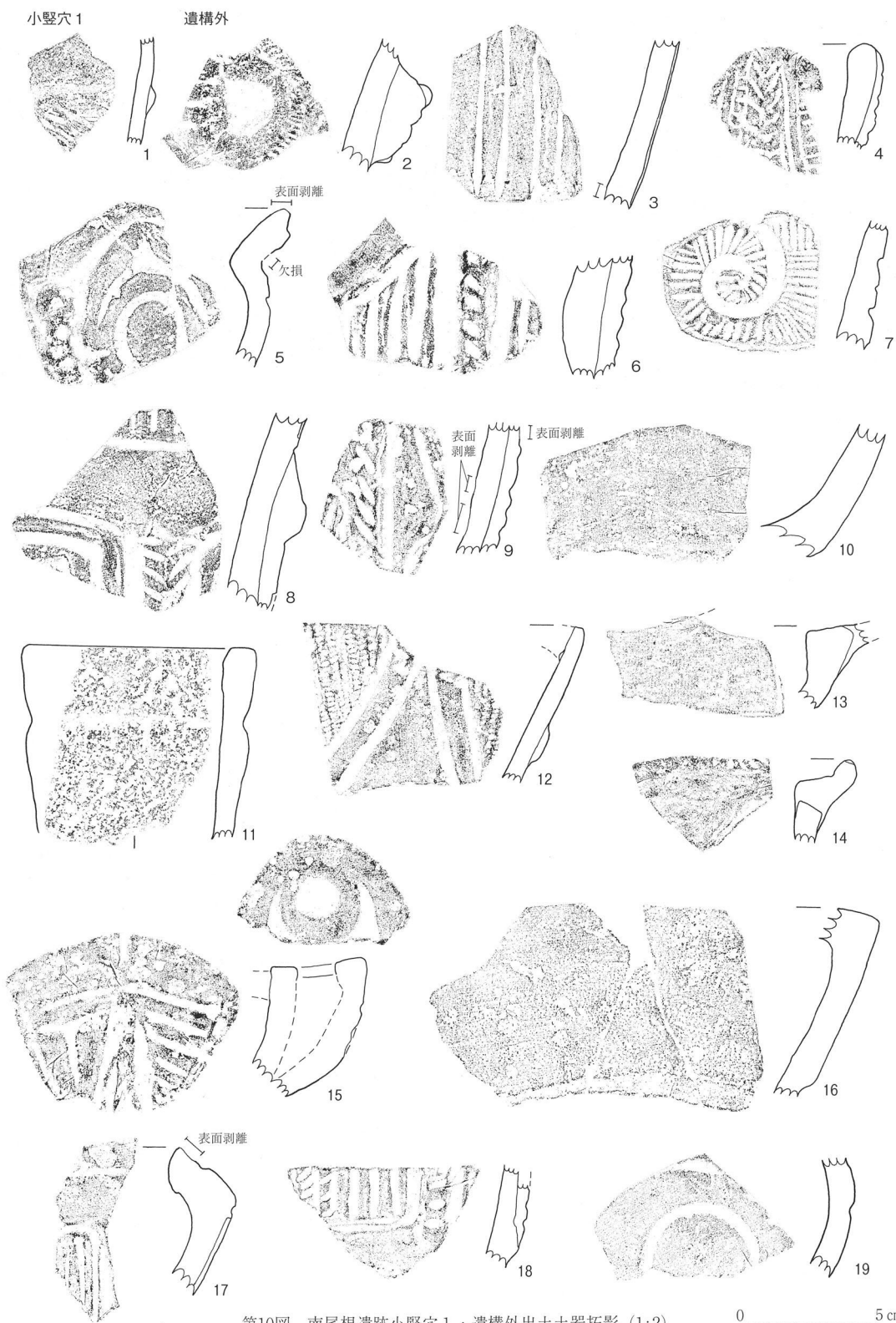
重複関係にあるが、セクションでの切り合いが掴めず、新旧関係は不明である。平面形はいずれも楕円形を呈し、深さ22cmを計る。なお、小竪穴3の南側は掘り過ぎてしまい、本来は少し小さく、円形に近い平面形と考えられる。

小竪穴4

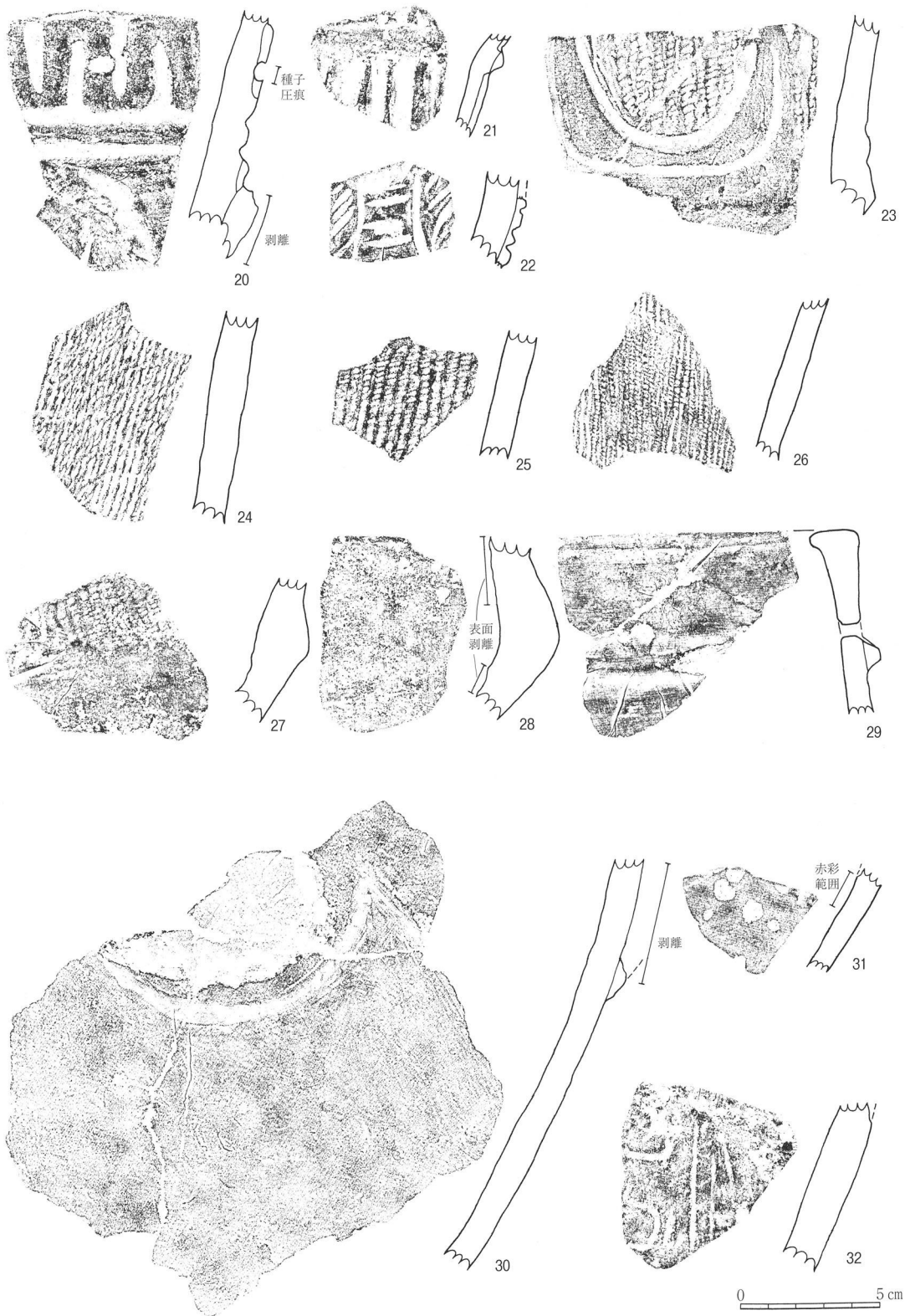
平面形は長軸70cm、短軸は不明の楕円形を呈し、深さ16cmを計る。底面は平らで、立ち上がりははっきりしない。遺物の発見はなし。



写真5 小竪穴1～4全景 (北から)



第10图 南尾根遺跡小豎穴1・遺構外出土土器拓影(1:2)



第11图 南尾根遺跡遺構外出土土器拓影 (1:2)

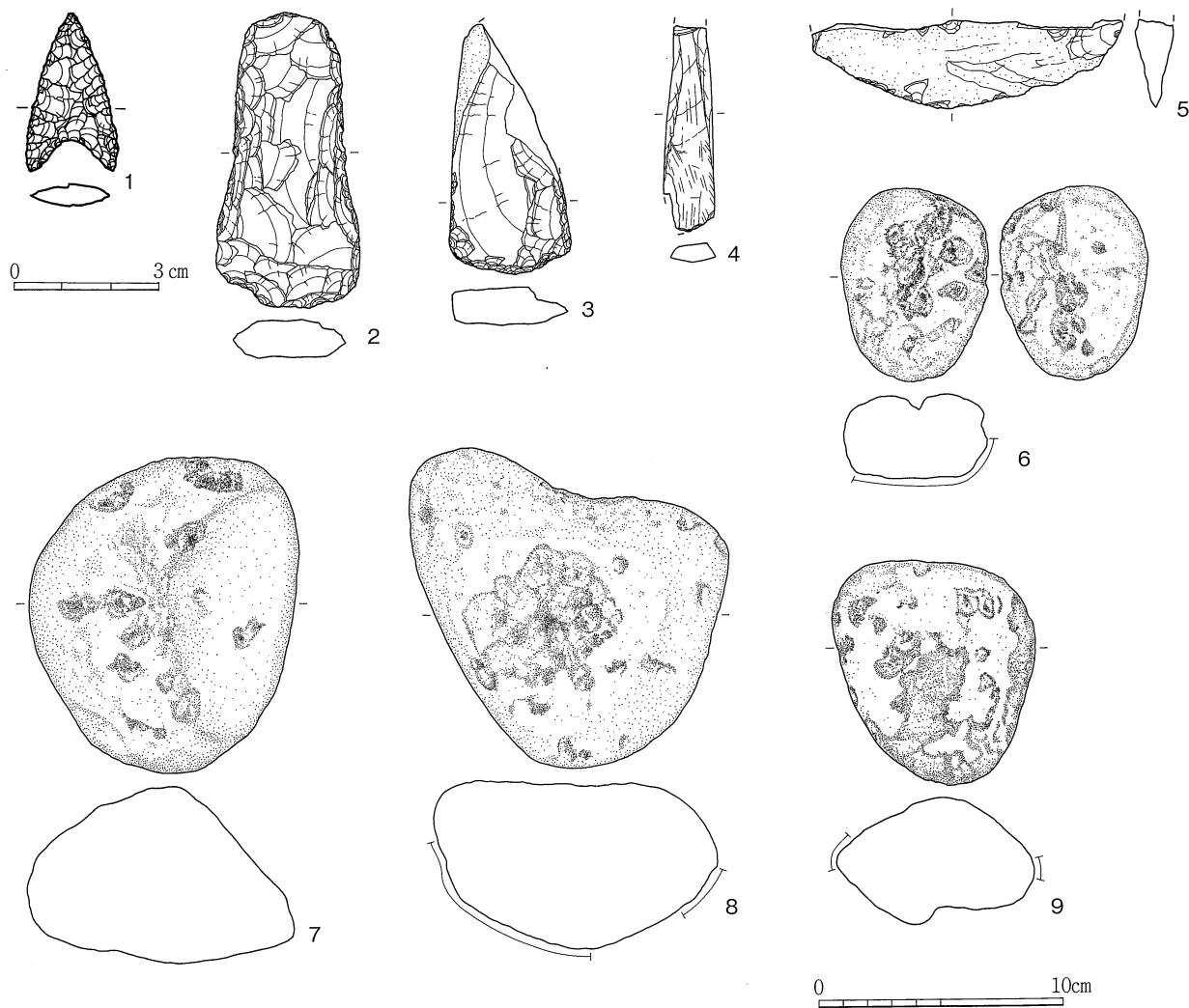
遺構に伴わない遺物（第10~12図）

土器

出土した縄文土器の総数は295点、最も多く出土したのは中期中葉期の282点であり、中期以外の時期は確認できなかった。中期中葉期のうち井戸尻式が最も多く、次いで藤内式が多く出土した。これらのうち32点を図化した。図2～3は新道式。4～10は藤内式、多くは藤内Ⅱ式であろう。11～28は井戸尻式、多くは井戸尻Ⅲ式であろう。11は小型筒型をした器形、ポコポコとした表面をし、井戸尻式～曾利Ⅰ式と考えられる。14・15は把手破片、20の上部には種子圧痕を確認できる。24・26は撚糸、25は0段多縄の縄文が施文されている。29～30は中葉期の有孔鍔付土器、31は浅鉢破片であり、内面に赤・黒色顔料が塗彩されている。42は中期後葉曾利Ⅲ～Ⅳ式である。

石器

出土した石器の総数は41点であった。遺構外から出土した21点のうち9点を図化した。図1は黒曜石製の石鏃、2～3は砂岩製の打製石斧、4は頁岩製の使用痕のある剥片、5はホルンフェルス製の摘み部を欠損した石匙、6は凹石・磨石、7・8は凹石、9叩石、いずれも輝石安山岩製である。



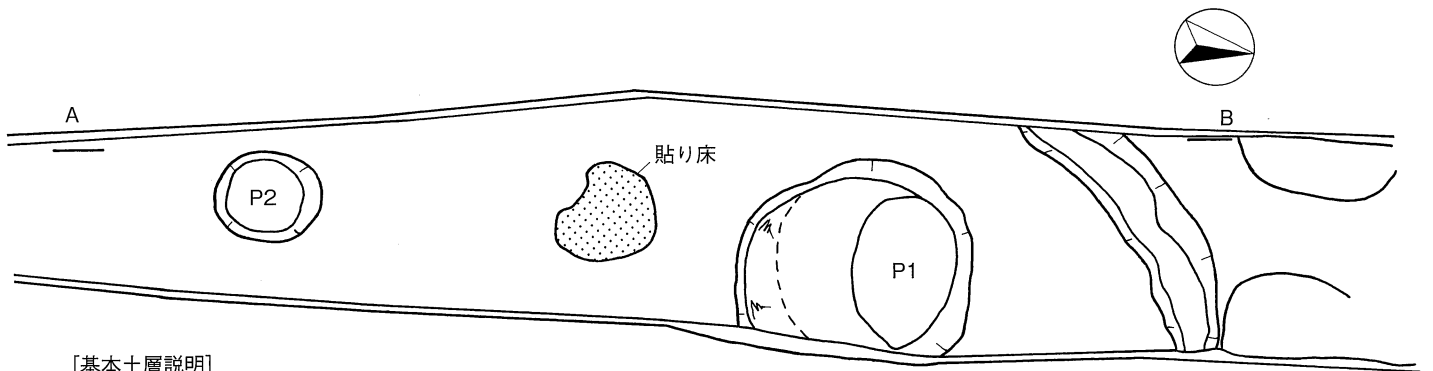
第12図 南尾根遺跡遺構外出土石器実測図 1(2:3) 2～9(1:3)

② 平安時代の遺構と遺物

第2号竪穴住居址（第13・14図 写真6・7 表2）

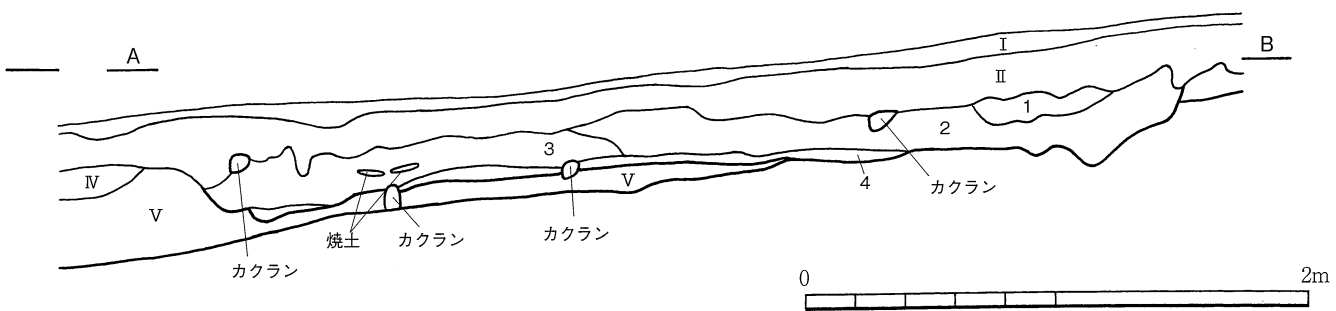
2号住居址を検出した南斜面にはローム粒・焼土・炭化物をわずかに含む暗黒褐色土が多く流れ込こんでいた。南北方向の調査境の掘り込みの壁に鉄製品らしきものを発見したが、検出までに遺物の発見は無く住居址として認識出来ない状態であった。覆土を取り除くと北壁直下に深さ7cmの周溝を発見し、また、北壁近くにP1を確認し精査を進めると、ロームブロック・焼土混じりの黄褐色の埋土中から土師器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄滓が出土したことにより、平安時代の住居址とした。P1は灰溜めであろう。床は北側はソフトロームで平らであるが南側は黒褐色土であったため、にわかに床面を削平してしまった。P1の直ぐ南側にロームを用いた貼床がされていた。

P1から出土した遺物は第14図1・2土師器杯、3は緑釉陶器の椀で10世紀前半のものである。2は内面黒色で粗雑な暗文が施されている。この他に土師器の小破片10点、表2の鉄製品・鉄滓が出土した。



[基本土層説明]

- I 黒色土 表土。
- II 明黒褐色土 盛土。
- III 黒褐色土 包含層。
- IV 暗褐色土 ローム粒子を多く、炭化物を少量含む包含層。
- V 明黒褐色土 ローム粒子を多く含むが、IV層より混じりが弱い。



[2号住居址土層説明]

- 1 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム粒子、1cm～3cm台のロームブロックを多く、焼土、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子を多く、ローム粒子をやや多く、炭化物を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 軟弱な貼り床。

第13図 南尾根遺跡第2号竪穴住居址実測図 (1:30)

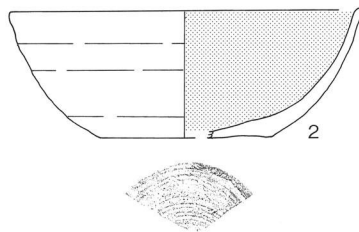
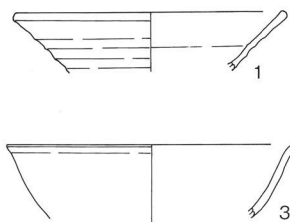


写真6 南尾根遺跡第2号竪穴住居址検出状態 (南から)

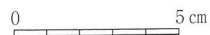
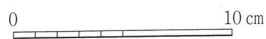
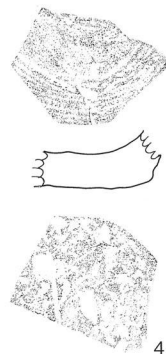


写真7 南尾根遺跡第2号竪穴住居址全景 右 (南から)

第2号住居址



遺構外



第14図 南尾根遺跡第2号竪穴住居址出土土器実測図、遺構外出土土器拓影 1~3 (1:3) 4 (1:2)

表2 南尾根遺跡出土鉄製品・鉄滓一覧表

番号	遺構名・地点	名称	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	備考
1	2号住居址	不明	3.7	1.1	0.6	3.3	刀子か
2	2号住居址	鉄滓	4.1	3.2	2.1	22.8	P 1 出土
3	2号住居址	鉄滓	1.6	1.3	1.0	3.3	P 1 出土
4	2号住居址	鉄滓	7.0	4.8	2.4	144.7	P 1 出土
5	2号住居址	鉄滓	0.9	4.5	2.5	78.5	P 1 出土
6	2号住居址	鉄滓	5.3	4.1	2.9	69.0	P 1 出土
7	2号住居址	鉄滓	5.2	3.7	3.3	77.4	P 1 出土
8	2号住居址	鉄滓	4.3	3.8	3.3	52.1	P 1 出土
9	2号住居址	鉄滓	4.4	3.6	2.8	45.7	P 1 出土
10	2号住居址	鉄滓	2.5	1.6	0.5	2.2	P 1 出土
11	2号住居址	鉄滓	2.2	1.9	1.6	8.6	貼床内出土
12	遺構外	不明	2.5	1.8	0.5	3.5	

遺構に伴わない遺物（第14図 表2）

土師器破片11点、灰釉陶器破片1点が出土した。土師器破片の内8点は坏、2点は甕、1点が小形甕の破片である。第14図4に甕底部1点を図化した。木葉底で内面はかき目の整形痕が顕著に残っている。

また、表2の12鉄製品が出土しが小破片のため何かは不明である。時期不祥の陶器、磁器破片が6点出土している。

6 まとめ

今回の調査では鰻の寝床のような調査範囲であったが、縄文中期井戸尻期の住居址1軒、平安後期の住居址1軒を検出することができた。出土遺物では縄文中期中葉、特に藤内～井戸尻期にかけての遺物が多く出土し、中期後葉曾利期の遺物は僅かに3点のみであった。本遺跡は新道～藤内期と曾利期の集落であることは予想していたが、中期中葉～後葉にかけての営まれた集落である可能性が考えられる。平安時代の遺物は37点と少ない。ただし、第2号住居址にて本地域では少ない緑釉陶器が出土したことは、平安時代後期の集落でも主要な集落であったと考えられる。本遺跡の周辺は今後も宅地化が進む地域であることから、注意深く見守っていく必要がある。

IV 二枚田遺跡 第6・7次発掘調査

1 発掘調査に至る経過

個人住宅の建設に先立ち、原村教育委員会に遺跡の照会がされた。予定地が二枚田遺跡（原村遺跡番号67）の範囲内に位置しているため、遺跡の保護について関係者と数回にわたり協議を行った。

本来なら遺跡は現状のまま保存することが望ましいが、住宅建設の要望は強く「記録保存やむなき」との結論に至り、平22年度に緊急発掘調査を実施する方向で同意をみた。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 望月 弘
教育課長 菊池 周吾
文化財係長 百瀬 善康
文化財係 平林 とし美
佐々木 潤

調査団 団長 望月 弘
調査担当者 平林 とし美
佐々木 潤

調査参加者 発掘作業 [第6次] 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり
[第7次] 五味 さゆり 横内 かおり 渡部 静香
整理作業 菊地 伸治 五味 幸子 五味 さゆり
横内 かおり 渡部 静香

3 発掘調査の経過（調査日誌抄）

[第6次調査]

平成22年10月15日 トレンチ設定を行う。

10月19日 重機でトレンチを掘削し、引き続き人力で精査を行い、北東隅から小竪穴12を半分検出。

10月20日 調査区北西部のトレンチを拡張し、小竪穴12、ロームマウンドを検出。

10月22日 小竪穴12完掘、ロームマウンドの範囲確認。

10月26日 小竪穴12、ロームマウンドの平面図、トレンチの写真撮影を行う。

10月27日 重機による埋め戻し作業及び機材の片付けを行い、調査は終了する。

[第7次調査]

平成23年1月14日 重機でトレンチを掘削し、引き続き人力で精査を行い、南側トレンチから小竪穴の

一部を検出。トレンチを拡張し、小竪穴13とした。図面、写真を撮影。重機による埋め戻し作業及び機材の片付けを行い、調査は終了する。

4 遺跡の地理的環境と概要

(1) 地理的環境

二枚田遺跡（原村遺跡番号67）は、長野県諏訪郡原村中新田地区に所在する。本遺跡は北を二枚田川、南を富士見二の沢川に挟まれ、二枚田川左岸に発達した東西に細長い尾根上から斜面に立地するが、すでに南斜面の多くは県道中新田・富士見線によって削平されている。

第6次調査の対象地は馬の背状に幅狭となる尾根上から再び幅広となる尾根頂部～北斜面に位置し、第2～4次調査の南西、第5次調査の北側に位置する。標高は1,073m～1,079m前後を計り、地目は山林である。

第7次調査の対象地は尾根北東先端付近の尾根北側肩部に位置する。標高は1,096m前後を計り、地目は山林である。

(2) 遺跡の概要

本遺跡は調査以前より縄文中期の土器・石器類が発見されていることは伝えられ、昭和59年には有頭石棒が大きな石と一緒に発見され、まだ数個の石が埋まったままとのことから配石遺構の存在を伺うことが出来る。平成10年度の第1次調査から第5次にわたる調査が行われ、住居址3軒、小竪穴11基が検出されている。注目すべきは第1次調査において、当地方としては非常に稀な弥生時代後期の土器破片を発見したことである。また、第2・3次調査において縄文時代中期初頭の住居址を南斜面で検出し、当地方においては比較的数量少ない縄文時代中期初頭の集落跡であることが判ってきている。

5 調査方法と遺構・遺物

(1) 調査方法と層序

①第6次発掘調査

今回の調査対象地は第15図に示した住宅建設用地である。山林であるため、伐採を行ったのち1m幅のトレンチを4本設定した。トレンチの1本は上水道敷設範囲に合わせ設定し、尾根頂部～斜面に位置する。重機による掘削を行い、引き続き人力による精査を行い遺物と遺構の検出に努めた。小竪穴・ローマウンドを検出したため、トレンチを拡張し、全体の検出に努めた。調査面積は96,8㎡である。

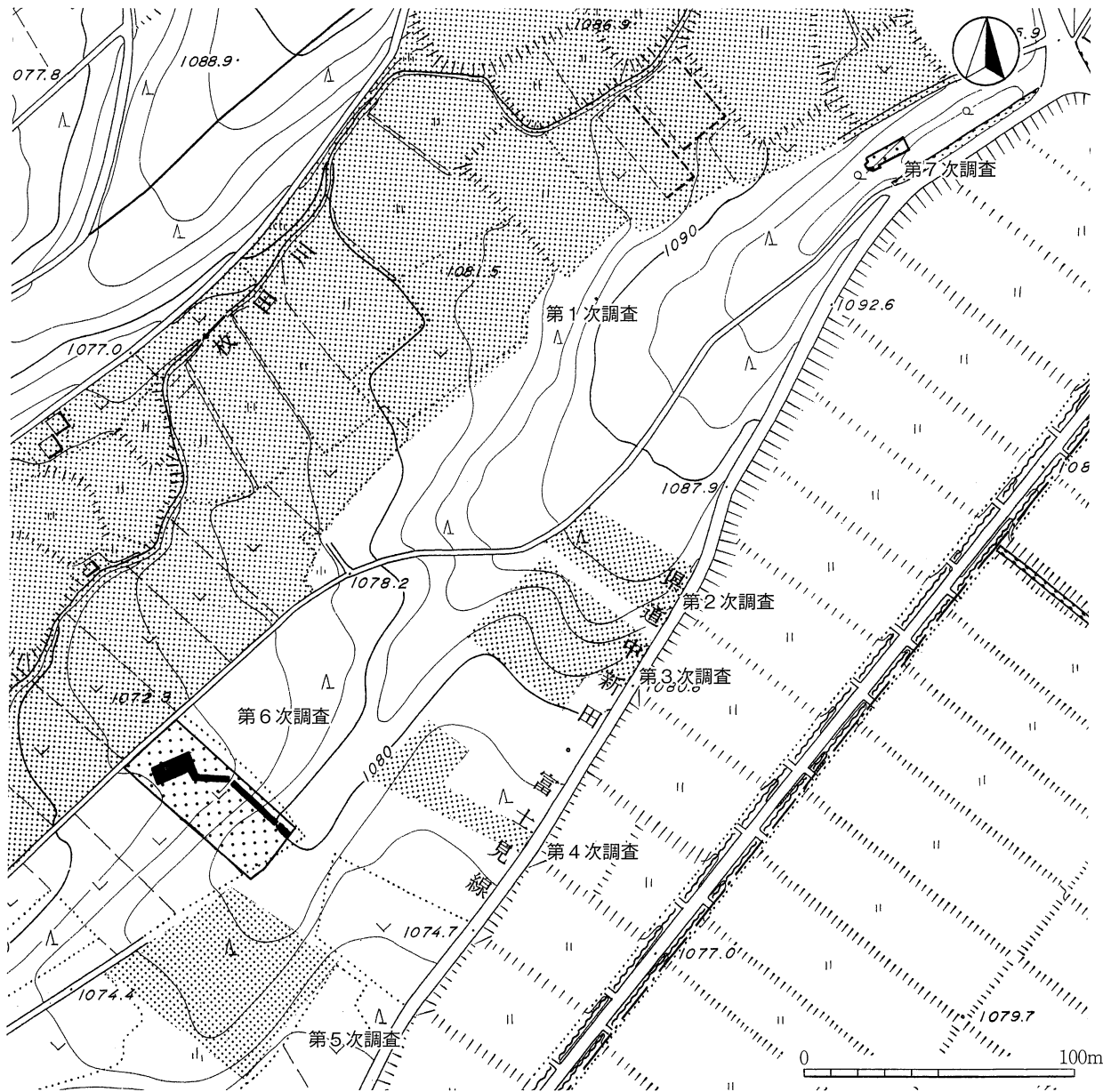
おおまかな基本土層は下記の通りである。

尾根頂部～斜面

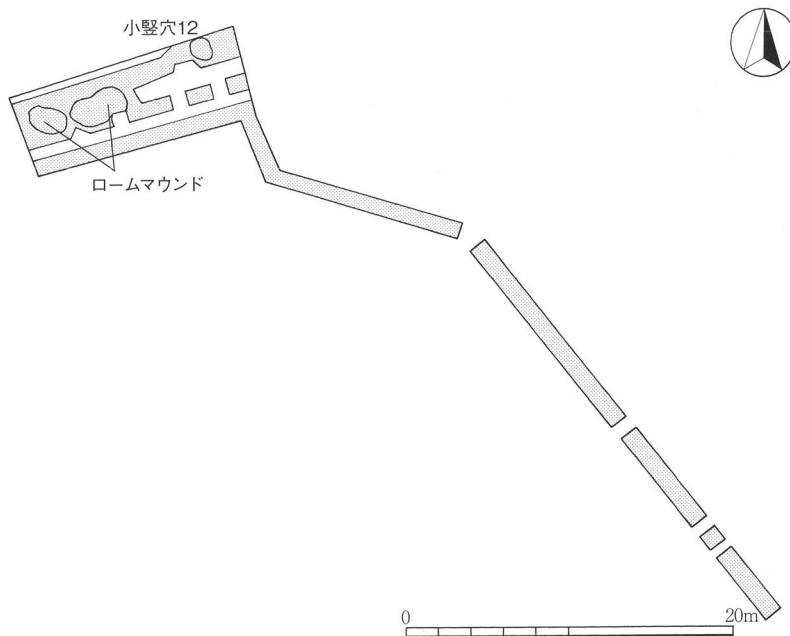
第Ⅰ層 黒色土層 2～5cm前後の表土。

第Ⅱ層 黄褐色土層 5～15cm前後を計る。斜面の低地付近では粘性が強い。

- 第Ⅲ層 黒褐色土層 7～52cm前後を計る。尾根肩部では堆積は見られず、斜面に厚く堆積する箇所が見られる。斜面の低地付近では粘性が強い。
- 第Ⅳ層 暗褐色土層 3～9cm前後の漸移層である。尾根頂部～肩部にて確認。
- 低地
- 第Ⅰ層 黒色土層 5～8cm前後の表土
- 第Ⅱ層 真黒色土層 20～30cm前後の拳大の礫混じりの土層。いわゆる真黒土（漆黒）である。
- 第Ⅲ層 暗褐色土層 8～21cm前後の拳大～人頭大の礫混じりの土層。
- 第Ⅳ層 黄褐色土層 ローム層



第15図 二枚田遺跡第6・7次発掘調査区域図・地形図 (1:2,500)



第16図 二枚田遺跡第6次発掘調査遺構配置図 (1:400)



写真8 二枚田遺跡第6次発掘調査
発掘調査風景 (東から)



写真9 二枚田遺跡第6次発掘調査
尾根頂部～北斜面トレンチ全景
(北から)

②第7次発掘調査

今回の調査対象地は第15図に示した住宅増築用地である。山林であるため、伐採を行ったのち1m幅のトレンチを東西方向に2本設定した。調査範囲の南西側3m×3m程の範囲には既にコンクリートによる基礎があるため、この範囲を除いた範囲を調査することとなった。調査範囲の南北幅は狭く、重機による掘削では2本同時に掘り下げることが出来ないため、1本ずつ掘り下げ、遺構・遺物の確認

を行い、記録をとった後、埋め戻し、もう1本のトレンチを掘り下げる手順をとった。なお、切株により掘り下げが出来ない箇所があり、トレンチは途切れている。調査面積は17.4㎡である。

おおまかな基本土層は下記の通りである。

- 第Ⅰ層 暗褐色土層 10～15cm 前後の盛土。
- 第Ⅱ層 暗褐色土層 8～15cm 前後を計る。ローム粒子をやや多く、1cm以下のロームブロック、赤色粒子を少量含む。
- 第Ⅲ層 明黒褐色土層 8～11cm 前後を計る。ローム粒子、赤色粒子を少量含む。
- 第Ⅳ層 暗褐色土層 6～20cm 前後の漸移層である。第Ⅱ層に類似するが、ローム粒子を多く含む。

北側トレンチでは傾斜が始まっているため、堆積が厚く第Ⅰ～Ⅳ層を確認することが出来たが、南側トレンチでは第Ⅰ層の直下に第Ⅳ層という層序であった。

(2) 遺構と遺物

①第6次発掘調査

小竪穴 (第17図 写真10・11)

当地域において尾根の北斜面からの遺構検出は稀である。第5次調査地点が遺跡から外れ、そのわずかに北の斜面に位置する調査地点は遺構の検出は難しいと思われていたが、小竪穴1基を検出することが出来た。小竪穴の南東部にロームマウンドと思われる遺構を2基検出したが、遺物が皆無であったこともあり、掘り下げずに調査を終了した。

小竪穴12 (第17図 写真10・11)

北斜面から降りた平坦部は拳大～直径40cm位の礫を含む基本土層第Ⅳ層暗褐色土であったが、この部分だけ他とは違う感じであった。引き続き精査を進めると落ち込みを確認したため、調査区ぎりぎりまで拡張した。埋土は東西方向の調査境の掘り込みで観察し、東から西に地形なりきにローム粒を含む黒色土が流れ込み、下層ほどその量は多く、自然埋没が観察された。

平面形は長軸78cm、短軸は62cmの楕円形を呈し、底面はほぼ平らで深さ33cmを計る。壁の立ち上がりはなだらかで下は段差が付いている。遺物の発見はなく、性格は不明である。



写真10 小竪穴12検出状態 (南から)

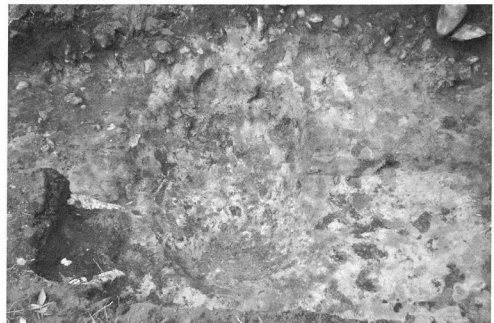
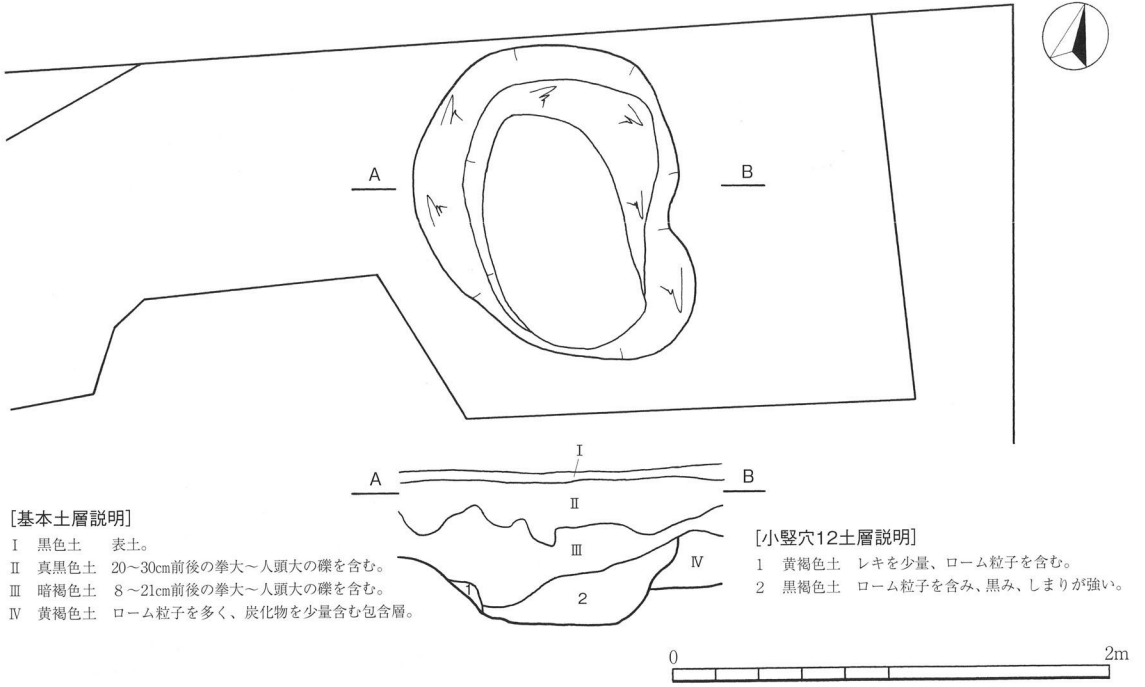


写真11 小竪穴12全景 (南から)



第17図 二枚田遺跡第6次発掘調査小竪穴12実測図 (1:30)

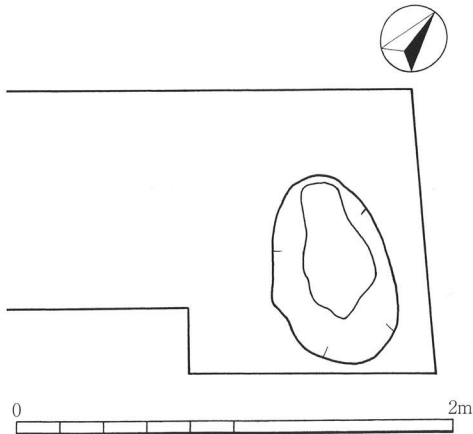
②第7次発掘調査

調査区は遺跡の東外縁部の痩せ尾根上で当初遺構の発見は予想していなかったが小竪穴1基を発見した。

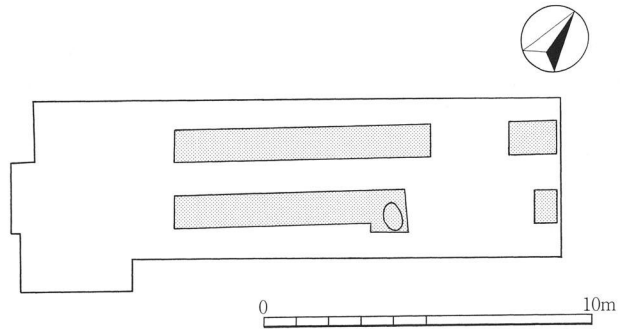
小竪穴13 (第19・20図 写真12)

南側トレンチの中央付近で、小竪穴らしき遺構の一部を確認し、人力により調査区を拡張した。

平面形は長軸88cm、短軸56cmの楕円形



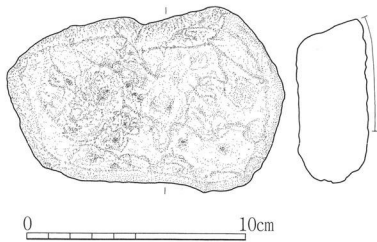
第19図 二枚田遺跡第7次発掘調査小竪穴13実測図 (1:30)



第18図 二枚田遺跡第7次発掘調査遺構配置図 (1:200)



写真12 二枚田遺跡第7次発掘調査小竪穴13全景



第20図 二枚田遺跡第7次発掘調査
小堅穴13出土石器実測図 (1:3)

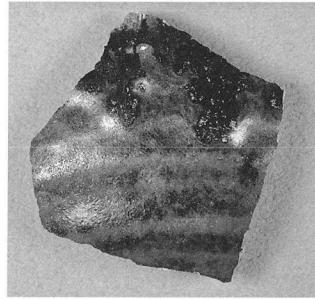


写真13 二枚田遺跡第7次発掘調査遺構外出土遺物

を呈し、深さ20cmを計る。底部は凹凸が見られる。遺物は検出面より第20図の叩石1点が出土した。

遺構に伴わない遺物 (写真13)

北側トレンチの西寄り付近の基本層序第Ⅲ層より、江戸時代後期の天目の椀破片が1点出土した。



写真14 二枚田遺跡第7次発掘調査風景 (西から)

6 まとめ

第6次調査では小堅穴1基を検出したが、遺物の発見には至らなかった。このため小堅穴12の帰属時期は不明である。なお、第1次調査において遺跡東側の北斜面に2基の楕円形を呈した小堅穴を検出している。いずれも同様の立地、形態及び規模を呈していることから、小堅穴12と何かしらの関連が考えられる。ただし、これらの小堅穴と小堅穴12では軸が約90度程度異なる点は留意する必要がある。

第7次調査では第6次同様に小堅穴1基を検出し、遺物は石器1点のみの出土に留まった。これまでの調査では遺跡北側の調査は第1次調査だけであり、北斜面～低地であったため、尾根上部の調査は今回が初めてであった。ただし、尾根先端部付近ということもあり、遺構の検出は難しいと思われたが、小堅穴を1基検出したことは、本遺跡の遺跡範囲を知る上で重要な発見であった。

これまで遺跡の西・北東外縁部が明らかでなかったが、今回の調査で両外縁部の一端を明らかにしたことは一定の成果であった。今後も開発は予想されることであり、今後の調査において注意深く見守る必要がある。

参考文献

- 信濃史料刊行會 1956 『信濃史料第一巻上』
- 諏訪清陵高等学校地歴部考古班 1974 「原村の考古学的調査 上」『土』8
- 諏訪清陵高等学校地歴部考古班 1975 「原村の考古学的調査 下」『土』9
- 原村役場 1985 『原村誌 上巻』
- 原村教育委員会 1995 『原村の埋蔵文化財35 久保地尾根遺跡 住宅建設に伴う緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 1997 『原村の埋蔵文化財42 久保地尾根遺跡（第4・6次発掘調査）平成8年度 県営圃場整備事業原村西部地区および県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 1999 『原村の埋蔵文化財50 追分沢・南長尾・二枚田遺跡 平成10年度 県営担い手育成基盤整備事業深山地区に先立つ緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 2000 『原村の遺跡』
- 原村教育委員会 2002 『原村の埋蔵文化財60 二枚田遺跡（第2次）久保地尾根遺跡（第7次）平成13年度個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 2002 『原村の埋蔵文化財61 居沢尾根遺跡（第8次）雁頭沢遺跡（第10次）久保地尾根遺跡（第8次）平成13年度中部電力東日本鉄道信濃境分線（No.4～No.10）間電線高上げ工事鉄塔建設に先立つ居沢尾根遺跡緊急発掘調査・建売住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡緊急発掘調査・宅地造成に先立つ久保地尾根遺跡緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 2003 『原村の埋蔵文化財64 二枚田遺跡（第3次発掘調査）平成14年度宅地造成事業に先立つ緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 2006 『原村の埋蔵文化財70 久保地尾根遺跡（第10次発掘調査）平成17年度霊園及び宅地造成に伴う緊急発掘調査概報』
- 原村教育委員会 2007 『原村の埋蔵文化財71 雁頭沢遺跡（第12次）・前沢遺跡（第5次）・出寺平遺跡・二枚田遺跡（第4次）平成18年度 駐車場建設に先立つ雁頭沢遺跡第12次、個人住宅建設に先立つ前沢遺跡第5次、出寺平遺跡、二枚田遺跡第4次緊急発掘調査報告書』
- 原村教育委員会 2008 『原村の埋蔵文化財72 雁頭沢遺跡（第13次）・久保地尾根遺跡（第11次）・出寺平遺跡（第2次）・二枚田遺跡（第5次）平成19年度個人住宅建設に先立つ雁頭沢遺跡第13次、久保地尾根遺跡第11次、出寺平遺跡第2次、遺跡範囲確認に伴う二枚田遺跡第5次緊急発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	でえでらいせき くぼちおねいせき みなみおねいせき にまいだいせき							
書名	出寺平遺跡（第3次） 久保地尾根遺跡（第13次） 南尾根遺跡 二枚田遺跡（第6・7次）							
副書名	平成22年度 個人住宅建設に先立つ出寺平遺跡第3次・久保地尾根遺跡第13次・南尾根遺跡・二枚田遺跡第6・7次緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	75							
編著者名	原村教育委員会							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村6549番地1 TEL 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2011年03月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
でえでらいせき 出寺平	ながのけんすわぐんかみ 長野県諏訪郡上里	3637	40	35度 58分 17秒	138度 14分 36秒	20100506 ～ 20100518	43.12	住宅建設
くぼちおねいせき 久保地尾根	ながのけんすわぐんはら 長野県諏訪郡原村 村室内	3637	57	35度 57分 32秒	138度 12分 48秒	20100903 ～ 20100909	41.7	住宅建設
みなみおねいせき 南尾根	ながのけんすわぐんはら 長野県諏訪郡原村 村弘沢	3637	30	35度 57分 48秒	138度 13分 15度	20100924 ～ 20101012	19.3	住宅建設に伴う上下水道敷設
にまいだいでら 二枚田 第6次	ながのけんすわぐんはら 長野県諏訪郡原村 村中新田	3637	67	35度 56分 23秒	138度 14分 32秒	20101015 ～ 20101027	96.8	住宅建設
第7次				35度 56分 30秒	138度 14分 42秒	20110114		17.4
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
出寺平			なし		なし			
久保地尾根			なし		なし			
南尾根	集落跡	縄文時代 平安時代 時期不詳	竪穴住居址1軒 竪穴住居址1軒 小竪穴4基		中期土器破片、石器 土師器・緑釉陶器、鉄滓、			
二枚田 第6次		時期不詳	小竪穴1基		なし			
第7次		縄文時代	小竪穴1基		石器			
要約	<p>出寺平遺跡は、遺物包含層が削平され、遺物・遺構の検出はない。</p> <p>久保地尾根遺跡は、遺物・遺構の検出はない。</p> <p>南尾根遺跡は、縄文中期住居址1軒と平安時代後期の住居址1軒を検出し、縄文中期・平安時代後期の集落跡であることが判明した。</p> <p>二枚田遺跡は、低地部において小竪穴を検出。性格、所属時期等は不明であるが、このような場所に遺構を確認し、本遺跡の西外縁部の一端を明らかにできた。</p>							

原村の埋蔵文化財75

出寺平遺跡 (第3次) 久保地尾根遺跡 (第13次)
南尾根遺跡 二枚田遺跡 (第6・7次)

平成22年度 個人住宅建設に先立つ出寺平遺跡
第3次・久保地尾根遺跡第13次・南尾根遺跡・
二枚田遺跡第6・7次緊急発掘調査報告書

発行日 平成23年3月

発行 原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷 ほおずき書籍(株)

